

報告する。

(25) 等高線壕工法の効果について

建設省砂防課	松	山	完
〃 中部地建	今	西	欽 哉
〃 〃	○鮫	島	照 一
京都大学農学部	赤	井	竜 男
〃	古	野	東 州

アメリカのユタ州において考案された工法である等高線壕工法のわが国への適用の可能性を研究するため岐阜県多治見市団子山において昭和27年試験施工された結果現在は黒松の立派な林となっている。

この施工直後の昭和29年、30年には種々の調査を実施しているが、今回は施行後約20年を経過した時点における林木の生長、根系の分布状態および幹部の状態との相対生長関係と土壌環境とを調査した。その結果によると、壕の保水より壕が土砂で埋まるまでは、林木の生長に対しかなりの機能を發揮しており、効果は非常に認められ、天然更新による松の生長を促進し、裸地の植生による被覆の目的を完全にはたしている。また位置を比較した場合は予想通り壕の下方の林木の方が生長が良好であった。

今回はこの調査結果を報告し諸賢の批判を仰ぐものである。

(26) 急勾配水流に関する基礎的研究

九州大学農学部(院) 岩 木 賢

I まえがき

砂防工学上の対象である野溪は、一般に勾配が急で、河床変動は著しく、非定常流をなし、河床の石礫は巨大で不均一である等の不確定因子が多数存在している。ところがその水理計算には1/1,000以下の緩勾配水路における実験式がそのまま利用されており、近年になってようやく1/100程度の実験例が見られるようになったが、それ以上の勾配についての報告はない。